



日向灘から得られた Synagropidae スミクイウオ科 (新称) の 2 種, *Parascombrops analis* バケスミクイウオと *P. ohei* サラシヒメスミクイウオ (新称) の九州からの初記録

岡本 誠¹・前田達郎²

Author & Article Info

¹ 国立研究開発法人水産研究・教育機構 開発調査センター (横浜市)
epigonidae@gmail.com (corresponding author)

² (茅ヶ崎市)

Received 09 April 2021
Revised 12 April 2021
Accepted 13 April 2021
Published 13 April 2021
DOI 10.34583/ichthy.7.0_23

Makoto Okamoto and Tatsuro Maeda. 2021. First records of *Parascombrops analis* and *Parascombrops ohei* (Synagropidae) from Kyushu, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 23–29.

Abstract

Two species of Synagropidae, *Parascombrops analis* (Katayama, 1957) and *Parascombrops ohei* Schwarzahns and Prokofiev, 2017 were collected from Hyuga-nada, off Nobeoka, Miyazaki Prefecture, southern Japan. These specimens represent the first records from Kyushu for each species. The new standard Japanese names “Sumikuiuo-ka” and “Sarashi-himesumikuiuo” are proposed for Synagropidae and *P. ohei*, respectively.

Schwarzahns and Prokofiev (2017) はスミクイウオ属 *Synagrops* Günther, 1887, ヒメスミクイウオ属 *Parascombrops* Alcock, 1889 の世界的な分類学的研究を行い, 新たに 2 属を設けて, 4 属あわせて 15 種を記載した (Schwarzahns and Prokofiev, 2017). なかでもヒメスミクイウオ属は最も構成種が多く, 西部大西洋とインド洋・西太平洋の熱帯から温帯域, およびハワイ諸島から 13 有効種が報告されている (Schwarzahns and Prokofiev, 2017). その多くの種が湾内の浅海域から大陸棚斜面域の海底付近に生息しているが, セダカヒメスミクイウオ *Parascombrops yamanouei* Schwarzahns, Prokofiev and Ho, 2017 は中深層に適応していることが示唆されている (Schwarzahns and Prokofiev, 2017). これまで日本産ヒメスミクイウオ属魚類は以下の 7 種が知られており, それらのうちの 2 種については標準和名が与えられていなかった (波戸岡, 2013; Fujiwara et al., 2017; 中山ほか, 2019): バケスミクイウオ *Parascombrops analis* (Katayama, 1957); ノコバスミクイウ

オ *Parascombrops mochizukii* Schwarzahns, Prokofiev and Ho, 2017; *Parascombrops nakayamai* Schwarzahns and Prokofiev, 2017; *Parascombrops ohei* Schwarzahns and Prokofiev, 2017; ヒメスミクイウオ *Parascombrops philippinensis* (Günther, 1880); ツマリヒメスミクイウオ *Parascombrops serratospinosus* (Smith and Radcliffe, 1912); セダカヒメスミクイウオ *P. yamanouei*.

著者らは 2021 年 1 月 27 日, 宮崎県延岡市沖で操業している小型底曳網漁船の漁獲物から 2 個体のヒメスミクイウオ属魚類を得た. これらの形態を精査した結果, バケスミクイウオ *P. analis*, および *P. ohei* の 2 種に同定された. 2 種ともにこれまで日本周辺海域からの記録および標本数は少なく, バケスミクイウオの国内での採集地は三重県尾鷲, 土佐湾, および茨城県沖 (36°N, 148°E), *P. ohei* は土佐湾のみからしか知られていない (Schwarzahns and Prokofiev, 2017). よって, 日向灘産の 2 標本は各種の九州における初記録となる. 本研究ではヒメスミクイウオ属 2 種の新たな分布記録とともに, *P. ohei* と 2 種の帰属する科の標準和名についても提唱する.

材料と方法

標本の計数および計測方法は主に Hubbs and Lagler (1958) にしたがったが, 体高 (最大体高として胸鰭基部), 頭長 (下顎先端部の下方突起先端から鰓蓋部の皮弁後端まで), 吻長 (下顎先端部から眼窩前縁まで), 眼窩径 (眼窩における最も幅の広い水平方向の距離) については Schwarzahns and Prokofiev (2017) の測定方法に従った. 計測にはデジタルノギスを使用して 0.01 mm 単位までの精度で行い, 四捨五入して 0.1 mm 単位で計算値を得た. 内部骨格形態の観察にはエックス線撮影装置を使用した. 雌雄の判別には, 右側の腹腔部付近を切開して生殖腺を確認した. 測定値は標準体長 (SL と略記) の百分率 (%) で示した. 標本は採集直後に冷凍され, 2 週間後に解凍してカラー写真撮影を行い, その後, 10% ホルマリンで固定し, 70% エタノールに置換して, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に登録, 収蔵されている.



Fig. 1. Fresh specimen of *Parascombrops analis* from Hyuga-nada, Miyazaki Prefecture, Japan. KAUM-I. 156159, 70.0 mm SL.

***Parascombrops analis* (Katayama, 1957)**

バケスミクイウオ

(Figs. 1, 2; Table 1)

標本 KAUM-I. 156159, 70.0 mm SL, 雄, 日向灘, 宮崎県延岡市沖, 32°36'N, 132°02'E, 水深約 300 m, 2021 年 1 月 27 日, 窪田考伸, 小型底曳網, 伊勢丸.

同定 調査標本は, 体高が高く, 後頭部が凸状になること; 臀鰭鰭条数が 3 棘 6 軟条; 胸鰭軟条数が 18; 胸鰭長が体長比の 27.0%; 鰓耙数 (合計) が 17; 擬鰓数が 16; 臀鰭第 1 近担鰭骨が長く, やや前方へと湾曲し, 先端部は広く空洞状になること; 外翼状骨には 1 列の歯が並ぶこと; 眼径が体長比の 12%; 耳石の長さ高さの割合が 1.51 であることから, Schwarzhans and Prokofiev (2017) に基づき, *P. analis* に同定された.

記載 計数, 計測形質の値は Table 1 に示した. 体は側扁し, 体高は高い (Fig. 1). 頭部も側扁し, やや大きい. 後頭部には凸状の骨質隆起がある. 吻端は丸く, 吻長は眼径よりも短い. 眼は大きく円形で, 両眼間隔域の隆起線は三角形で発達し, 中央で僅かに凹む. 前鼻孔は短い短管状, 後鼻孔は大きく, 縦長のスリット状で皮膜などはない. 口は大きく, 端位で, 口を閉じると下顎先端の方が上顎先端よりもわずかに突出する. 主上顎骨の後端は眼の中央直下にあり, 後縁は上部で凹む. 上顎には粒状の歯からなる歯帯があり, 先端部に 1 対の犬歯がある. 下顎は先端部に犬歯が 1 対, 前部の約 1/4 のみに粒状の歯からなる歯帯があり, その後方にかけて外側に小型の円錐歯が 1 列に並び,

内側には犬歯 (右側 5 本, 左側 2 本) が並ぶ. 鋤骨にはやや湾曲した小型の円錐歯によって形成されたへの字状の歯帯がある. 口蓋骨には前部から 2/3 に 1 列の小型の円錐歯が並び, その後部は 2 列. 外翼状骨には粒状の歯が 1-2 列並び. 基舌骨に歯はない. 主鰓蓋骨の後縁は凹み, 弱い棘が 2 つある. 前鰓蓋骨の縁辺は鋸歯状, 隆起部の隅角部には微小な棘が 4 本ある. 下鰓蓋骨の後腹縁と間鰓蓋骨の前腹縁は弱い鋸歯状. 発達した鰓耙は小棘を備え櫛状で, 上肢の上端付近には同様に小棘を備えたパット状の痕跡的形質が 2 つ, 下枝の前端付近にも同様の形質が 2 つある. 背鰭は 2 基で, 第 1 背鰭始部は鰓蓋部後端よりもやや前方に位置する. 第 1 背鰭の第 1 棘は短く (第 3 棘と第 4 棘の先端部は破損), 全ての棘の前縁は円滑. 第 2 背鰭の基底は第 1 背鰭棘の基底よりも短く, その始部は肛門よりもやや前方に位置する. 第 2 背鰭棘はやや短く, 前縁は円滑. 胸鰭は細長く, その後端は肛門にはわずかに届かない. 腹鰭基部は胸鰭基部のほぼ直下に位置する. 腹鰭棘は太く, その前縁には鋸歯が密に並び. 臀鰭始部は第 2 背鰭第 6 軟条の直下付近に位置し, 臀鰭基底長は第 2 背鰭基底長よりも短い. 臀鰭棘は 3 本で, 第 1 棘は微小, 第 2 棘は太くて長く, 第 3 棘は細いが第 2 棘よりもやや長い. 臀鰭第 1 近担鰭骨は長く, やや前方へと湾曲し, 先端部は広くて空洞状になる. 肛門は第 2 背鰭第 2 軟条の直下付近に位置する. 尾鰭は中央で二叉する. 尾柄部は短く, やや低い. 鱗は大型の円鱗で, 剥がれやすい (頭部, 体側ともにほぼ脱落).

耳石は大きく, 扁平した楕円形 (Fig. 2). 背部は中庸に高く, 丸みを帯びる. 腹部は高く, 最も高い場所は中央

よりも前方に位置する。前端部付近は肥厚し、嘴状に尖り、明瞭な欠刻がある。後端部付近は幅が広く、丸みを帯びる。耳石全体の縁辺はほぼ円滑で、後部背縁のみがわずかに波打つ。耳石内側の表面はやや凸状で、浅い溝があり、その前方にある入口部の窪みは楕円形で浅い。外側の表面は上部のみやや凹凸があり、それ以外の部分は円滑。耳石の長さ高さの割合 (OL:OH) が 1.51, 長さ幅の割合 (OL:OT) が 6.0, および入口部の窪みの長さ尾部の長さの割合 (CaL:OsL) は 1.1。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) ー 体は背部が薄い黄色を帯びており、尾柄部側面中央は薄桃色。その他の場所は乳白色。体の背部と尾鰭基部には黒色素胞が密に分布し、体側には黒色素が散在する。頭部は後頭部から吻部が淡褐色、眼下域から鰓蓋部が銀白色。上下顎骨側面、主鰓蓋骨の上部に黒色素胞が分布する。胸鰭、腹鰭基部から腹腔前部が銀白色。第 1 背鰭、第 2 背鰭、臀鰭、および尾鰭は乳白色で、黒色素胞が密に分布する。腹鰭は乳白色だが、基部はより白っぽく、軟条に黒色素胞がある。胸鰭は上部が薄い桃色、その下部は半透明。胸鰭の基部から前半部には微小な黒色素胞がある。

固定後の色彩 ー 体の背部と第 1, 第 2 背鰭基底付近が薄茶色、尾柄部側面中央部は薄橙色、その他の部分は白色。体の黒色素胞は上半部、尾柄部に散在するが、下半部は腹



Fig. 2. Right otolith (inner face) of *Parascombrops analis*, KAUM-I. 156159, 70.0 mm SL.

腔部、臀鰭基部とその上方にのみ薄く分布する。頭部は後頭部から吻部が薄茶色、頬が薄橙色、上下顎骨から頬が白色、主鰓蓋骨は銀白色。後頭部から吻部、下顎側面と先端部には黒色素胞が密に分布し、上顎側面後半部を除きそれ以外の部分には黒色素胞が散在する。第 1 背鰭は薄い灰色で、第 3 棘付近の鰭膜はやや黒く、その他の部分は半透明、鰭全体に黒色素胞が分布する。第 2 背鰭、臀鰭、および腹鰭は半透明で、鰭全体に黒色素胞が分布する。胸鰭は淡褐色で、下縁を除いて黒色素胞が散在し、基部には大

Table 1. Counts and measurements of *Parascombrops analis* and *Parascombrops ohei*.

	<i>Parascombrops analis</i>		<i>Parascombrops ohei</i>	
	KAUM-I. 156159 <i>n</i> =1	Schwarzahns and Prokofiev (2017) <i>n</i> =19	KAUM-I. 156160 <i>n</i> =1	Schwarzahns and Prokofiev (2017) <i>n</i> =8
Standard length (mm)	70	29–107.5	87.2	53.5–87
Counts				
Dorsal-fin rays	IX-I, 9	IX-I, 9	IX-I, 9	IX-I, 9
Anal-fin rays	III, 6	III, 6	II, 7	II, 7
Pectoral-fin rays	18	16–18	16	14–15
Gill rakers (total)	17	15–18	16	13–16
Pseudobranchial filaments	16	16–23	22	19–25
Measurements (% SL)				
Head length	38.9	37.1–40.7	34.2	34.1–37.7
Snout length	8	8.4–10.2	8	7.0–9.8
Orbital diameter	12	11.6–12.8	10.7	10.7–12.9
Postorbital length	18.4	no data	16.5	no data
Upper jaw length	15.7	no data	13.3	no data
Interorbital width	10	no data	8.6	no data
Maximal body depth	29.1	27.9–33.8	25.8	21.5–27.7
Predorsal length	39.1	39.2–43.2	36.8	35.5–40.3
Pre-2nd dorsal-fin length	65.4	no data	64.2	no data
Pre-pelvic-fin length	37	no data	37.4	no data
Preanal length	71.7	65.9–72.3	66.1	65.0–66.7
1st dorsal-fin base length	21	no data	18.8	no data
2nd dorsal-fin base length	14	no data	12.4	no data
Anal-fin base length	9.9	no data	10	no data
Pectoral-fin length	27	21.6–27.3	25.2	23.1–26.6
Pelvic-fin length	broken	no data	20.8	no data
Caudal-peduncle length	21.9	no data	25.2	no data
Caudal-peduncle depth	12.1	no data	11	no data



Fig. 3. Fresh specimen of *Parascombrops ohei* from Hyuga-nada, Miyazaki Prefecture, Japan. KAUM-I. 156160, 87.2 mm SL.

型の黒色素胞が6個ある。尾鰭は薄い灰色で、全体に黒色素胞が密に分布する。肛門は黒色。口腔内は白く、舌には黒色素胞が少数、散在する。

分布 オーストラリアのクイーンズランド沖、ニューカレドニア、バヌアツ、パプアニューギニア、台湾、フィリピン、三重県尾鷲、土佐湾、茨城県沖 (Katayama, 1957; Mochizuki, 1984; Schwarzhans and Prokofiev, 2017; Fricke et al., 2019), および日向灘 (本研究) の水深 148–956 m.

備考 バケスミクイウオは日本産ヒメスミクイウオ属のなかで唯一、臀鰭棘が3本ある種として知られており、この形質により識別は容易である (Schwarzhans and Prokofiev, 2017)。しかし、小型個体 (65 mm SL 以下) においては、臀鰭第3棘の骨化が不完全なため、棘条として計数することは難しいと報告されている (Schwarzhans and Prokofiev, 2017)。よって、小型個体については、頭長が長いこと (37.1–40.7% SL)、体高が高いこと (27.9–33.8% SL)、第1背鰭第2棘および臀鰭第2棘の前縁が滑らかなこと、臀鰭第1近担鰭骨の先端部は幅が広く空洞状になること、体色は体側の上半部と下半部で明瞭に色分けされないという組み合わせにより日本産同属他種と識別可能である (Schwarzhans and Prokofiev, 2017; 中山ほか, 2019)。

これまでバケスミクイウオの仔稚魚期に関する知見はないが、同属種のヒメスミクイウオの仔稚魚が記載されている (小西, 1988, 2014)。本種は臀鰭棘が3本で、その他の日本産ヒメスミクイウオ属魚類は臀鰭棘が2本であることから、鰭条が形成される後屈曲期仔魚から稚魚期におい

ては、この形質によって識別出来る可能性が高いとされている。しかし、前記の通り 64 mm SL 以下の個体では、臀鰭第3鰭条は成長に伴って変化することが知られており (Schwarzhans and Prokofiev, 2017)、仔稚魚期では臀鰭棘の数は識別形質としては有効ではない。

本種は Katayama (1957) により三重県尾鷲産の1個体に基づき、初めて記載され、その際に「バケスミクイ」という標準和名が与えられた。その後、Mochizuki (1973) でも本種をバケスミクイとしているが、望月 (1984) では「バケスミクイウオ」となっている。その際、「ウオ」がついた理由は全く触れられていないが、望月 (1984) 以降、本種の標準和名はバケスミクイウオとされている (阿部, 1987; 波戸岡, 1993, 2013; 小西, 1988, 2014; 中山ほか, 2019)。日本魚類学会によって定められた「魚類の標準和名の命名ガイドライン」の項 2.2 によると、日本産魚類の標準和名は、原則として「日本産魚類検索：全種の同定、第二版 (中坊徹次 (編), 2000)」が起点とされている。これにより、本研究では本種に対して「バケスミクイウオ」の標準和名を使用した。

***Parascombrops ohei* Schwarzhans and Prokofiev, 2017**
サラシヒメスミクイウオ (新称)
 (Figs. 3, 4; Table 1)

標本 KAUM-I. 156160, 87.2 mm SL, 雄, 日向灘, 宮崎県延岡市沖, 32°36'N, 132°02'E, 水深 約 300 m, 2021

年1月27日, 窪田考伸, 小型底曳網, 伊勢丸.

同定 調査標本は体型がやや細長い; 後頭部は凸状; 吻端は丸い; 臀鰭鰭条数が2棘7軟条, 臀鰭第1軟条は分節するが分枝しない; 胸鰭長が体長比の25.5%; 鰓耙数(合計)が16; 擬鰓数が22; 臀鰭第1近担鰭骨は直線状で長く, 先端が尖り, 空洞部がない; 鋤骨には多数の粒状の歯によって形成された幅広い三角形の歯帯がある; 口蓋骨と外翼状骨には2-4列の歯によって形成されたやや幅の広い歯帯がある; 眼径は体長比の10.7%; 前鰓蓋骨の隅角部に1本の隆起線がある; 耳石は極めて細長く, 長さ高さの割合が2.06となり, Schwarzhans and Prokofiev (2017)に基づき, *P. ohei* に同定された(胸鰭軟条数については一致しなかったが, 備考参照).

記載 計数, 計測形質の値は Table 1 に示した. 体は側扁し, 体やや細長い (Fig. 3). 頭部も側扁し, やや大きく, 背縁は緩やかに湾曲する. 後頭部の凸状の隆起線は低い. 吻端は丸く, 吻長は眼径よりも短い. 眼は大きく円形で, 両眼間隔域の隆起線は三角形で発達し, 中央で僅かに凹む. 前鼻孔は短い短管状, 後鼻孔は大きく, 縦長のスリット状で皮膚などは無い. 口は大きく, 端位で, 口を閉じると下顎先端の方が上顎先端よりもわずかに突出する. 主上顎骨の後端は眼の中央直下にあり, 後縁は上部で凹む. 上顎には粒状の歯からなる歯帯があり, 先端部に2対の犬歯がある. 下顎は先端部に犬歯が1対, 前部の約1/5のみに粒状の歯からなる歯帯があり, その後方にかけて外側に微小な円錐歯が1列, 内側には3本の犬歯が並ぶ. 鋤骨には粒状の歯によって形成された幅広い三角形の歯帯がある. 口蓋骨から外翼状骨にかけて2-4列の小型の円錐歯が並び, やや幅の広い歯帯を形成する. 基舌骨に歯はない. 主鰓蓋骨の後縁は凹み, 弱い棘が2つある. 前鰓蓋骨の縁辺は鋸歯状で外側の隅角部には1本の隆起線があり, 内側の隅角部には微小な棘が5本ある. 下鰓蓋骨の後腹縁と間鰓蓋骨の前腹縁は弱い鋸歯状. 発達した鰓耙は小棘を備え櫛状で, 上肢の上端付近には同様に小棘を備えたパット状の痕跡的形質が2つ(右側は4つ), 下枝の前端付近にも同様の形質が2つある. 背鰭は2基で, 第1背鰭始部は鰓蓋部後端よりもやや後方に位置する. 第1背鰭の第1棘は短く, 第3棘が最長で, 全ての棘の前縁は円滑. 第2背鰭の基底は第1背鰭の基底よりも短く, その始部は肛門のほぼ直上に位置する. 第2背鰭棘はやや短く, 前縁は円滑. 胸鰭は細長く, その後端は肛門にはわずかに届かない. 腹鰭基部は胸鰭基部のほぼ直下に位置する. 腹鰭棘は太く, その前縁には鋸歯が密に並ぶ. 臀鰭始部は第2背鰭第3軟条の直下付近に位置し, 臀鰭基底長は第2背鰭基底長よりも短い. 臀鰭棘は2本で, 第1棘は微小, 第2棘は太くて長い. 臀鰭第1軟条は分節するが, 分枝しない. 臀鰭第1近担鰭骨は直線状で長く, 先端が尖り, 空洞部はない. 尾鰭は中央

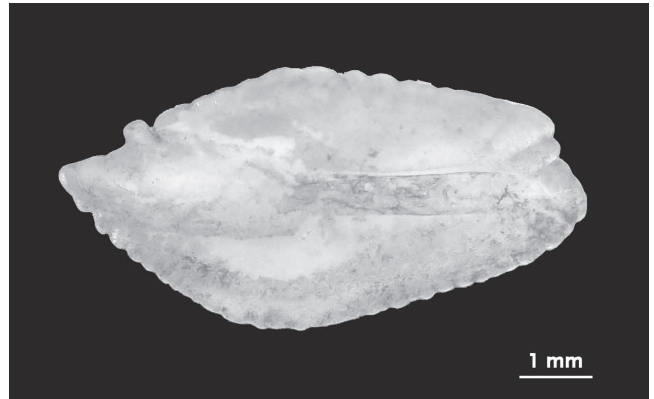


Fig. 4. Right otolith (inner face) of *Parascombrops ohei*, KAUM-I. 156160, 87.2 mm SL.

で二分する. 尾柄部はやや長く, 低い. 鱗は大型の円鱗で, 剥がれやすい(頭部, 体側ともにほぼ脱落).

耳石は大きく, 扁平した細長い楕円形 (Fig. 4). 背部は低く, 菱形に近い. 腹部はやや高く, 最も高い場所は中央よりも前方に位置する. 前端部付近は薄く, 嘴状に尖り, 欠刻はない. 後端部付近はやや幅が広く, 丸みを帯びる. 耳石全体の縁辺は波打つ. 耳石内側の表面はやや凸状で, 浅い溝があり, その前方にある入口部の窪みは楕円形で浅い. 外側の表面は上部のみやや凹凸があり, それ以外の部分は円滑. 耳石の長さ高さの割合 (OL:OH) が2.06, 長さ幅の割合 (OL:OT) が8.9, および入口部の窪みの長さ尾部の長さの割合 (CaL:OsL) は1.23.

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 3) 一体は上半部が灰色, 下半部は銀白色で明瞭に色分けされており, 体表全体に微小な黒色素胞が密に分布する. 頭部は後頭部が淡褐色, 両眼間隔域から吻部にかけて薄い黄色みを帯びた灰色, 眼下域と鰓蓋部が銀白色で, 上下顎骨は白い. 後頭部, 眼窩の周囲, 吻部, 上下顎骨, および頬に黒色素胞がある. 第1背鰭第2棘から第7棘の先端部とその周辺の鰭膜は黒く, それ以外の部分は灰色がかかった白色で, 鰭全体に黒色素胞がある. 第2背鰭は全体的に灰色がかかった白色で, 鰭全体に黒色素胞がある. 臀鰭は半透明の薄い白色で, 鰭の基部に黒色素胞がある. 胸鰭は上半部が薄い灰色, 下半部は透明で, 黒色素胞が鰭の上半部に多く分布するほか, 基部にも密集する. 腹鰭は半透明の薄い白色. 尾鰭は基部が薄い黄色で, 全体が灰色がかかった白色で, 黒色素胞が分布する.

固定後の色彩 一体の上半部は淡褐色, 下半部が白色で, その境界付近と尾柄部は薄茶色, 体全体には黒色素胞が密に分布する. 頭部は後頭部から吻部が薄茶色, 頬と主鰓蓋骨が銀色, 上下顎骨は白色で, 上顎の後半部側面を除いて黒色素胞が散在する. 第1背鰭の第2棘から第7棘の先端付近の鰭膜は黒く, その他の部分は透明で, 鰭全体に黒色素胞がある. 第2背鰭と臀鰭は透明で, 第2背鰭は鰭全体に黒色素胞が密に分布するが, 臀鰭は鰭の基部と上半部に

まばらに黒色素胞があるのみ。胸鰭は上半部が薄い灰色、下半部が透明で、鰭の上部から 3/4 までに黒色素胞が鰭条に沿って並び、鰭の基部には黒色素胞が密に分布する。腹鰭は透明で、外側の 2 軟条のみに黒色素胞が薄く散在する。第 2 背鰭、臀鰭、および腹鰭は半透明。肛門は灰色。口腔内は薄茶色で、舌を除いて微小な黒色素胞が密集する。

分布 土佐湾 (Schwarzahns and Prokofiev, 2017)、および日向灘 (本研究) の水深約 200–300 m。また静岡県掛川市から本種と考えられる耳石の化石標本が見つかった (Schwarzahns and Prokofiev, 2017)。

備考 本種の日本における記録は土佐湾、および耳石の化石が静岡県掛川市からのみ知られており (Schwarzahns and Prokofiev, 2017)、本標本は九州からの初記録となる。また本種は日本産種として知られていたが、これまで標準和名は与えられていなかった。よって、日向灘産標本を基準標本として、本種にサラシヒメスミクイウオの新標準和名を提唱する。これは本種の体色が体の下半部において銀白色であることから、腹部に巻く「さらし」にちなむ。

本標本の計数形質および計測形質は、Schwarzahns and Prokofiev (2017) による原記載のデータとほぼ一致したが、胸鰭軟条数については、本標本が 16 で、原記載が 14–15 と異なっていた。原記載の計数は土佐湾産の標本 8 個体のみに基づいていること、同属の多くの種では胸鰭軟条数の範囲が 3–4 本 (バケスミクイウオ、ノコバスミクイウオ、ヒメスミクイウオ、ノコバスミクイウオなど; Schwarzahns and Prokofiev, 2017) であることから、この相違は種内変異と判断した。ただし、本標本が採集された日向灘とタイプ産地の土佐湾は隣接しているため、生息地域による変異とは考えにくい。

日本産ヒメスミクイウオ属 7 種のうち、生鮮時の体色において、体側の上半部と下半部が明瞭に色分けされた特徴をもつ種はノコバスミクイウオと本種のみである可能性を示唆している (中山ほか, 2019)。本標本においても、同様の特徴が見られ、生鮮時における識別的特徴としては有効であることが判明した。その他に、本種は本属魚類のなかで最も耳石が細長いこと (耳石長が耳石高の 1.90–2.10)、また第 1 背鰭第 2 棘、第 2 背鰭棘、および臀鰭第 2 棘が滑らかであることによって同属他種と識別可能である (Schwarzahns and Prokofiev, 2017)。

本種は最大体長が約 90 mm とされており、ヒメスミクイウオ属のなかでは中型の種として知られている (Schwarzahns and Prokofiev, 2017)。本標本は 87.2 mm SL と比較的、大型の雄個体であり、生殖腺はかなり発達していた。よって、本種は日向灘周辺海域で再生産を行っている可能性が高い。

Synagropidae の標準和名

ヒメスミクイウオ属の世界的な分類学的研究が行われた際、本属のみならず、近縁群とされたスミクイウオ属、*Carabiops*、*Kaperangus* の 4 属はホタルジャコ科 Acropomatidae の属として分類されていた (Schwarzahns and Prokofiev, 2017)。しかし、その後、遺伝子データに基づいた系統解析により、ホタルジャコ科は再編され、その構成する属はホタルジャコ属 *Acropoma* とアカムツ属 *Doederleinia* の 2 属のみとされ、ヒメスミクイウオ属、スミクイウオ属、*Carabiops*、*Kaperangus* の 4 属は Synagropidae に分類された (Ghedotti et al., 2018)。元来、この研究以前から知られていたホタルジャコ科については、形態学的研究においても共有派生形質は見つかっておらず、多系統群である可能性が示唆されていた (Johnson, 1984)。本研究では Ghedotti et al. (2018) の研究に従い、ヒメスミクイウオ属を Synagropidae の 1 属として扱った。この Synagropidae については標準和名が与えられていないため、本科のタイプ属であるスミクイウオ属 *Synagrops* に基づき、スミクイウオ科を提唱する。

謝 辞

本研究を行うにあたり、伊勢丸の窪田考伸氏 (宮崎県延岡市) には標本を提供していただき、厚く御礼を申し上げます。また、本村浩之博士 (KAUM) には標本登録にご協力いただき、瀬能 宏博士 (神奈川県立生命の星・地球博物館) には標準和名の取り扱いについて有益なご助言を賜り、心より感謝の意を表す。

引用文献

- 阿部宗明. 1987. 原色魚類大図鑑. 北隆館, 東京. 1029 pp.
- Fricke, R., G. R. Allen, D. Amon, S. Andréfouët, W.-J. Chen, J. Kinch, R. Mana, B. C. Russell, D. Tully and W. T. White. 2019. Checklist of the marine and estuarine fishes of New Ireland Province, Papua New Guinea, western Pacific Ocean, with 810 new records. *Zootaxa*, 4588: 1–360.
- Fujiwara, K., U. B. Alama, M. Okamoto and H. Motomura. 2017. First records of the acropomatid fish (Teleostei: Perciformes) *Parascombrops yamanouei* from Japan and the Philippines. *Biogeography*, 19: 85–92. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/biogeography/19/0/19_85/_pdf-char/en)
- Ghedotti, M. J., J. N. Gruber, R. W. Barton, M. P. Davis and W. L. Smith. 2018. Morphology and evolution of bioluminescent organs in the glowbellies (Percomorpha: Acropomatidae) with comments on the taxonomy and phylogeny of Acropomatiformes. *Journal of Morphology*, 2018: 1–14.
- 波戸岡清峰. 1993. スズキ科, pp. 594–599, 1305. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- 波戸岡清峰. 2013. ホタルジャコ科, pp. 750–753, 1958–1959. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1958. Fishes of the Great Lakes region. University of Michigan Press, Ann Arbor. 251 pp.
- Johnson, G. D. 1984. Percoidei: development and relationships, pp. 464–498. In Moser H. G., W. J. Richards, D. M. Cohen, M. P. Fahay, A. W. Kendall, Jr., S. L. Richardson (eds.) *Ontogeny and systematics of fishes. Special Publication 1. American Society of Ichthyologists and Herpetologists*, Lawrence.

- Katayama, M. 1957. Four new species of serranid fishes from Japan. *Japanese Journal of Ichthyology*, 6: 153–159. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/jji1950/6/4-6/6_4-6_153/_pdf)
- 小西芳信. 1988. スズキ科スミクイウオ属, pp. 408–411. 沖山宗雄(編) 日本産稚魚図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 小西芳信. 2014. ホタルジャコ科, pp. 669–674. 沖山宗雄(編) 日本産稚魚図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 秦野.
- Mochizuki, K. 1973. The first record of the scombroid fish *Neoscombrops annectens* from Japan. *Japanese Journal of Ichthyology*, 20: 207–210. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/jji1950/20/4/20_4_207/_pdf)
- 望月賢二. 1984. スズキ科, pp. 121–123, pls. 108–110. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次(編). 2000. 日本産魚類検索 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京. lvi + 1748 pp.
- 中山直英・高見宗広・堀江 琢. 2019. 駿河湾におけるノコバスマイクイウオ *Parascombrops mochizukii* の記録. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.18-046, 66: 205–210.
- Schwarzhans, W. W. and A. M. Prokofiev. 2017. Reappraisal of *Synagrops* Günther, 1887 with rehabilitation and revision of *Parascombrops* Alcock, 1889 including description of seven new species and two new genera (Perciformes: Acropomatidae). *Zootaxa*, 4260: 1–74.